

モバイルモジュール更新ツール サンプルデータ解説書

このマニュアルは、モバイルモジュール更新ツールのサンプルデータを通して、プログラム・データの更新の方法に関して説明しています。

ご注意

このソフトウェアおよびマニュアルの、一部または全部を無断で使用、複製することはできません。このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。

このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

このソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

このマニュアルの著作権はカシオ計算機株式会社に帰属します。

本書中に含まれている画面表示は、実際の画面とは若干異なる場合があります。予めご了承ください。

© 2010 カシオ計算機株式会社

Microsoft, MS, ActiveSync, Active Desktop, Outlook, Windows, Windows NT, および Windows ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Microsoft 社の製品は、OEM 各社に、Microsoft Corporation の 100%出資子会社である Microsoft Licensing, In

目次

| | | |
|-------|--|----|
| 1. | 本書の目的 | 1 |
| 2. | モバイルモジュール更新ツールの概要 | 1 |
| 2.1 | 特徴 | 1 |
| 2.2 | 環境 | 1 |
| 2.3 | スペックファイル | 2 |
| 2.4 | カタログファイル | 3 |
| 2.5 | 更新結果ログファイル | 3 |
| 3. | モバイルモジュール更新ツールデモ環境の構築と実行 | 4 |
| 3.1 | デモ環境の用意 | 4 |
| 3.1.1 | デモ内容 | 4 |
| 3.1.2 | デモに必要な環境 | 4 |
| 3.1.3 | 提供データ | 5 |
| 3.1.4 | サンプルデータのフォルダ構成 | 6 |
| 3.2 | デモ環境の設定 | 7 |
| 3.2.1 | モジュール更新ツールのインストール | 7 |
| 3.2.2 | FTP サーバの設定 Windows XP を例に説明していますが、Windows 2000 の場合でも、同様の作業となります。 | 8 |
| 3.3 | モジュール更新の実行 | 10 |
| 4. | スペックファイル・カタログファイルの作成・修正 | 11 |
| 4.1 | 携帯端末構築ツールのインストール | 11 |
| 4.2 | 携帯端末スペックエディタの起動 | 11 |
| 4.3 | スペックファイルの作成 | 12 |
| 4.4 | カタログファイルの作成 | 13 |
| 4.5 | カタログファイルの修正 | 14 |
| 5. | モジュール更新ツール 修正内容 | 15 |
| 5.1 | Ver2.03 での変更点 | 15 |
| 5.2 | Ver2.06 での変更点 | 15 |
| 5.3 | Ver2.10 での変更点 | 15 |

1. 本書の目的

本書では、モバイルモジュール更新ツールを使用するにあたり、デモ環境による具体的な使用例を提示し、モジュール更新の動作および環境の構築方法を理解するために書かれたものです。

本書と同時に提供されるモジュール更新デモ環境を使用する事により、モジュール更新の動作をご体験いただけます。

またデモ環境や、同時に提供するサンプルデータを変更する事で、モジュール更新環境を簡単に構築できるようにします。

ご注意

本書で例として取り上げている FTP 環境は、テスト用に作成したものです。

業務で運用する場合には、必ずユーザ・パスワードの設定を行うなどセキュリティに配慮した環境を構築するようにしてください。

2. モバイルモジュール更新ツールの概要

2.1 特徴

モバイルモジュール更新ツールを利用する事で、ハンディターミナルのデータを、自動更新することができます。

- アプリケーション及びデータの更新を、簡単・効率的に行います。
- ハンディターミナルのアプリケーションおよびデータバージョンの一元管理が可能となります。

2.2 環境

対象ハンディターミナル

DT-5300CE / DT-5300WM / DT-5200M60 / DT-5200M50 / DT-X7M50 / DT-X8-20J / DT-X8-10J / IT-300

ソフトウェア

モジュール更新ツール (Mobile Module Updater Ver.2.03 以降)

DT-X7M5xSB シリーズ以外は、事前に、ハンディターミナルへインストールを行う必要があります。

対象ネットワーク環境(下記の何れかの環境となります)

- ハンディターミナルとデータサーバ間で FTP 通信を行える環境
- ハンディターミナルとデータサーバ間で WEB 通信を環境
- ハンディターミナルとデータサーバ間で LMWIN による通信が可能な環境
- ハンディターミナルとデータサーバ間でフォルダを共有している環境

本書では、運用の例として FTP サーバを利用して環境構築を行う例を取り上げます。

WEB サーバや、LMWIN を使用する方法は、別途 モバイルモジュール更新ツールのマニュアルをご参照ください。

2.3 スペックファイル

モジュールの更新を、どのように行うかの手順を XML で記述したファイルです。

ファイル名称は、【MoConfig.xml】です。

あらかじめ、ハンディターミナルの『¥My Documents¥CASIO¥MOUPDATE』フォルダにインストールします。

以下に、スペックファイルに記述する主な内容を列挙します。

- ハンディターミナルの状態確認

- 電池残量
- 無線 LAN 環境

等の確認ダイアログの指定を行います。

- ハンディターミナル情報

- 会社コード
- 店舗コード
- 端末番号

等、端末固有の情報を記述します。

このデータは、更新ログとしてサーバにアップロードされます。

- ダウンロード伝送経路の指定（必須）

- FTP
- WEB
- LMWIN
- 共有フォルダ

の指定を行います。

- アップロード伝送経路の指定

更新ログをアップする為のアップロード伝送経路の指定を行います。

ダウンロード伝送経路の指定と同等な方法で指定を行います。

- カタログファイルの指定（必須）

サーバのカタログファイルを指定します。

※カタログファイルの内容に従って、モバイルモジュール更新ツールはファイルのダウンロードを行います。

2.4 カタログファイル

更新を行うモジュールに関して XML で記述したファイルです。

ファイル名称は、スペックファイルに記述された任意のファイル名称となります。

スペックファイルから、複数のカタログファイルを指定できるので、端末共通な部分と端末固有なモジュールを分けて記述する事が可能です。

以下に、カタログファイルに記述される主要な項目に関して列挙します。

- 識別情報
 - カタログファイルの内容説明 (**必須**)
 - カタログファイルのバージョン、更新日
 - モジュールが格納されているフォルダ名称 (**必須**)
- モジュール情報
ダウンロードするモジュールファイル個別の情報を記述します
 - 進捗状況に表示するためのモジュール名称 (**必須**)
 - モジュールのバージョン (**必須**)
 - ハンディターミナルに配置するフォルダ (**必須**)

2.5 更新結果ログファイル

モジュール更新が正常に終了すると、ログファイルをサーバに転送します。

ログファイルは、

【店舗コード】-【端末番号】MoConfig.log

の形で保存されます。

デモ環境を例にとると、

初台本店 000 号機 MoUpdate.log

となります。

モジュール更新の実効毎に同名のファイルがアップロードされ、同名のファイルがある場合には上書きされます。

ハンディターミナルそれぞれの更新状況を把握するためには、スペックファイル (MoConfig.xml) の『HtNo』ブロックの値をそれぞれ変更してください。

3. モバイルモジュール更新ツールデモ環境の構築と実行

モジュール更新ツールを体験していただくためにデモ環境を用意しました。
以下の説明に従って環境構築を行うと、モジュール更新が実行できます。
この章では、サンプルデータを使用したモジュール更新デモについて説明します。

3.1 デモ環境の用意

3.1.1 デモ内容

DT-X7 の場合

推奨パッチ(サービスパック 1.01)のインストールを行います。

DT-X8 の場合

SetUP.exe のインストールを行います。

DT-5200M50 の場合

64M モデル用推奨パッチ(サービスパック 1.04)のインストールを行います。

DT-5200M60 の場合

128M モデル用推奨パッチ(サービスパック 2.04)のインストールを行います。

DT-5300CE abg の場合

M5xAxシリーズ用推奨パッチ(サービスパック 1.07)のインストールを行います。

DT-5300CE bg の場合

M5xシリーズ用推奨パッチ(サービスパック 1.07)のインストールを行います。

DT-5200 WMC の場合

Windows Mobile Classic 用推奨パッチ(サービスパック 1.05)のインストールを行います。

DT-5200 WMP の場合

Windows Mobile Pro 用推奨パッチ(サービスパック 1.05)のインストールを行います。

IT-300 の場合

SetUP.exe のインストールを行います。

3.1.2 デモに必要な環境

ハンディターミナル

DT-X7 又は DT-X8、DT-5200、DT-5300、IT-300

あらかじめ無線 LAN 又は、LAN クレードルで PC と通信が出来るように設定する必要があります

PC

OS が Windows XP(Professional) 又は Windows2000(Professional)が動作し、

ハンディターミナルと LAN 接続が可能なコンピュータ

デモ用の IP アドレスは、192.168.0.10(サブネットマスク 255.255.255.0) としてあります。
PC の IP アドレスをこれ以外にする場合には、スペックファイルの記述を修正してください。
無線 LAN 接続を行う場合には、アクセスポイントもご用意ください。

3.1.3 提供データ

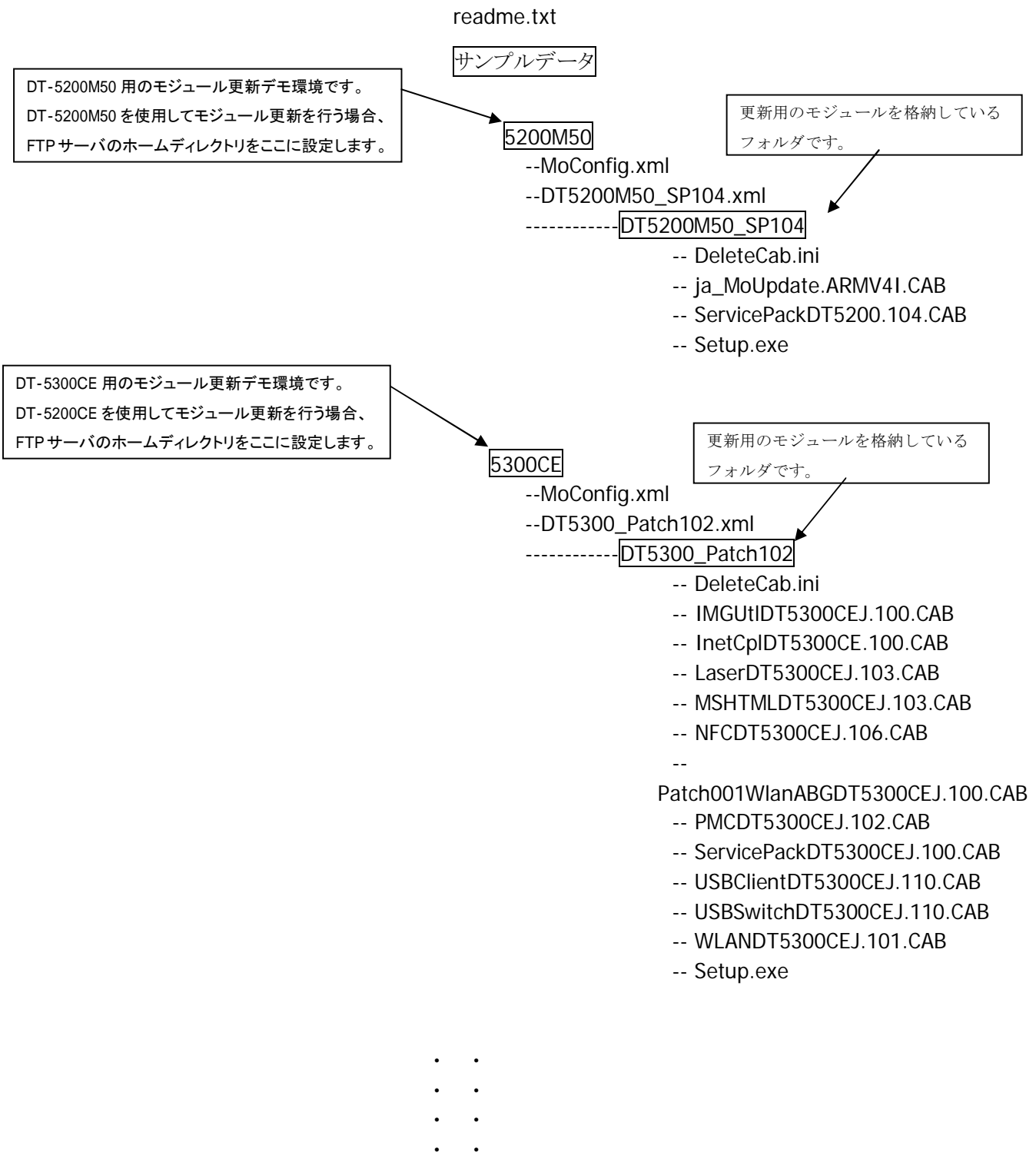
同梱されている、MMUsample.zip ファイルを解凍します。

サンプルデータ ----- DT-X7、X8、5200、5300、IT-300 一台用のデモ環境

サンプルの各フォルダ

- MobileModuleUpdater210 -- モジュール更新ツール Ver2.10
- MoKitting ----- 携帯端末構築ツール
スペックファイル・カタログファイルの
XML ファイルを編集するためのソフトウェア
モジュール更新スペックエディタが含まれています。

3.1.4 サンプルデータのフォルダ構成



3.2 デモ環境の設定

3.2.1 モジュール更新ツールのインストール

解凍されたサンプルデータの、『MobileModuleUpdater209』フォルダ下の『DATA』フォルダに格納されている各ハンディターミナルごとの『CE』フォルダを『FlashDisk』フォルダにコピーします。

ファイルをコピー後、リセットを行うことで自動的にインストールが開始されます。

| | |
|-----------------------|--------------------------------------|
| 『DTX7』フォルダ対応機種 | :DT-X7 シリーズ |
| 『DTX8』フォルダ対応機種 | :DT-X8 シリーズ |
| 『DT5200M50』フォルダ対応機種 | :DT-5200M50 シリーズ |
| 『DT5200M60』フォルダ対応機種 | :DT-5200M60 シリーズ |
| 『DT5300CEabg』フォルダ対応機種 | :DT-5300 M5xAx MWindows CE シリーズ |
| 『DT5300CEbg』フォルダ対応機種 | :DT-5300 M5x Windows CE シリーズ |
| 『DT5300WMC』フォルダ対応機種 | :DT-5300 Windows Mobile Classic シリーズ |
| 『DT5300WMP』フォルダ対応機種 | :DT-5300 Windows Mobile Pro シリーズ |
| 『IT300』フォルダ対応機種 | :IT-300 シリーズ |

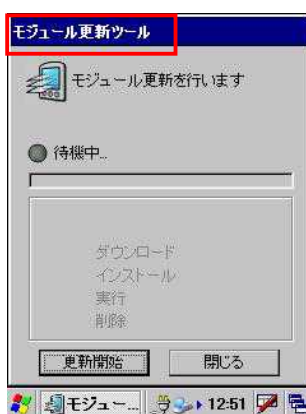
ご注意

DT-5200 では、古いモジュール更新ツールがインストールされて出荷されている製品があります。モジュール更新ツールを起動して、プログラムタイトル名称を確認してください。

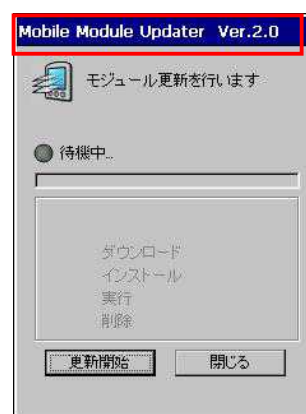
古いバージョンがインストールされている場合には、リセットしてもインストールが始まりません。プログラムの削除で、『CASIO モジュール更新ツール V2』をアンインストールしてください。リセット後に、自動的にインストールされます。



モジュール更新ツールを起動します。



【モジュール更新ツール】と表示されている場合は古いバージョンです。



【Mobile Module Updater Ver.2.0】と表示されている場合は新しいバージョンです。

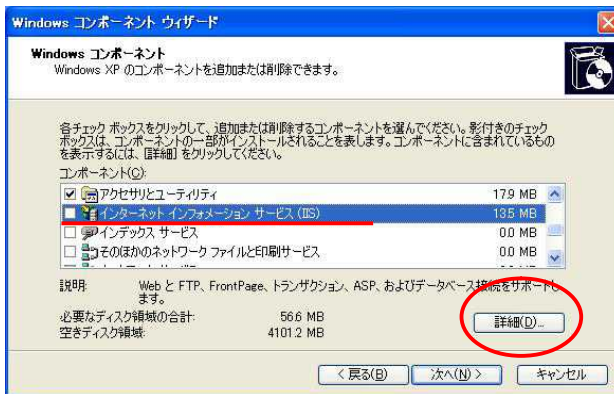
3.2.2 FTP サーバの設定 Windows XP を例に説明していますが、Windows 2000 の場合でも、同様の作業となります。

FTP サーバのインストール

1. コントロールパネルを開き、【プログラムの追加と削除】を選択します。
2. 【Windows コンポーネントの追加と削除】を選択します。



3. Windows コンポーネント ウィザードの【インターネット インフォメーションサービス】を選択し、詳細ボタンを選択します。

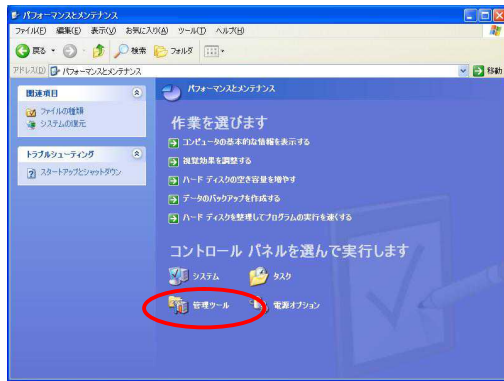


4. インターネット インフォメーションサービスの【FTP サービス】にチェックを入れ、OK ボタンを選択します。

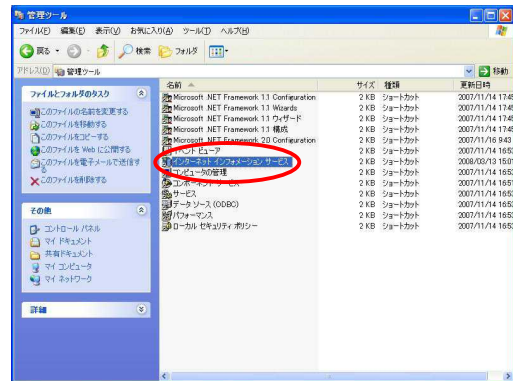


5. Windows コンポーネント ウィザードの画面に戻りますので、【次へ】ボタンを選択します。
6. Windows XP の CD-ROM が要求される場合がありますが、その場合は画面の指示に従ってください。

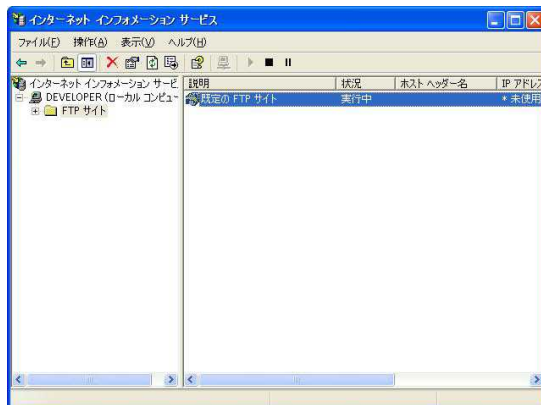
FTP サーバの設定



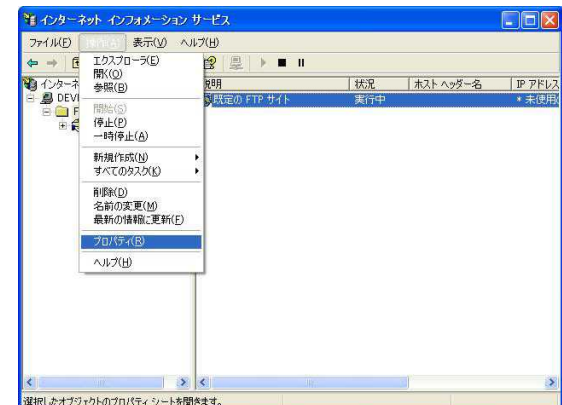
コントロールパネルの【パフォーマンスとメンテナンス】を選択します



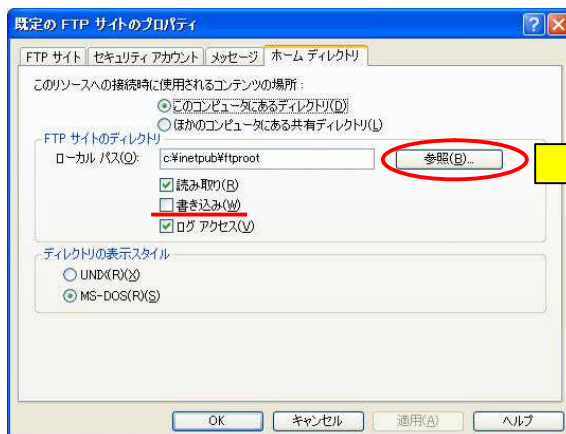
【管理ツール】を選択します



【インターネットインフォメーションサービス】を選択します



【規定の FTP サイト】を選択し、【操作】⇒【プロパティ】を選択します



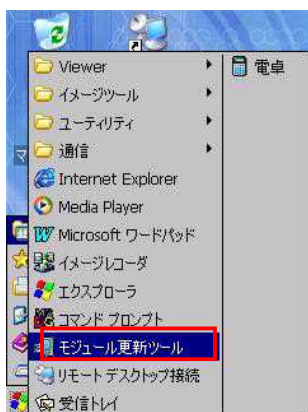
【ホームディレクトリ】タブを選択し、FTP サイトのディレクトリを指定します



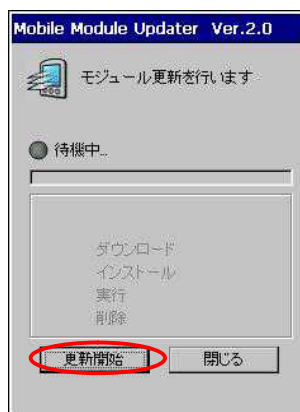
DT-5200 単体デモの場合は『5200』フォルダ
DT-X7 単独デモの場合は『X7』フォルダをホームディレクトリに指定します。

書き込みにチェックを入れ、OK ボタンを選択して設定は終了です。

3.3 モジュール更新の実行

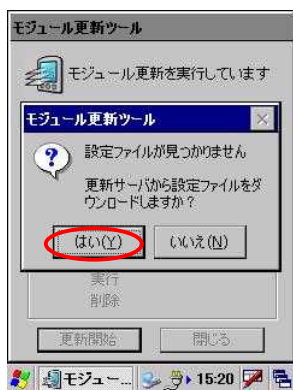


スタート ⇒プログラム ⇒モジュール更新ツールを選択します。

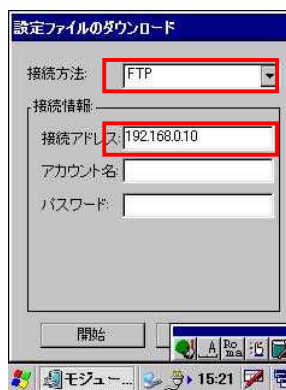


更新開始を選択します。

ハンディターミナルにスペックファイルがインストールされていない場合



スペックファイルがインストールされていない、設定ファイルがありませんと表示されます。サーバにスペックファイルが用意されている場合、最初の一度だけ、ダウンロードする事が可能です。



接続方法に『FTP』を指定して、サーバの IP アドレスを入力します。開始ボタンを選択すると、サーバからスペックファイルをダウンロードします。



モジュール更新が開始されると、上記の通り進捗状況が表示されます。スペックファイルがインストール済の場合にはこの状態から動作します。



更新が終了すると、自動的に再起動されます。

4. スペックファイル・カタログファイルの作成・修正

スペックファイル・カタログファイルは、XML 形式で記述されています。
ファイルの修正・編集には通常テキストエディタを使用しますが、カンオ計算機より提供している
携帯端末構築ツールに含まれる『モジュール更新スペックエディタ』を使用する事で
XML の文法を意識する事なくスペックファイル・カタログファイルの作成が可能となります。

4.1 携帯端末構築ツールのインストール

『Mokitting』フォルダの『setup.exe』を実行する事で、携帯端末構築ツールがインストールされます。
インストールが完了すると、スタートアップに『携帯端末構築』フォルダが作成されその中に

- ・モジュール更新スペックエディタ
 - ・端末構築ツール
 - ・無線 LAN 設定バーコード印刷ツール
- の三つのツールがインストールされます。

今回は、『モジュール更新スペックエディタ』を使用します。

携帯端末構築ツールを実行するためには、『Microsoft .NET Framework 2.0』が必要です。
事前にインストールしておいてください。

『Microsoft .NET Framework 2.0』は、Windows Update 又は Microsoft ダウンロードセンターより入手可能
です。

4.2 携帯端末スペックエディタの起動



- ・スタートメニューより、【携帯端末構築】⇒【モジュール更新スペックエディタ】を選択します。
- ・ファイルメニューより、【新規作成】を選択して、モジュール更新データを構築するフォルダを選択します。

・データを修正する場合は、ファイルメニューの、【開く】からモジュール更新の環境を構築した
フォルダを選択し、『MoConfig.xml』を開きます。

4.3 スペックファイルの作成

・電池残量
・無線環境
などでのツールの動作を設定します。

端末毎の識別情報を設定します。
更新結果ログを収集する場合は、
必ず設定してください。

データダウンロードの
方式を設定します。

更新結果ログをアップ
ロードする方式を設定
します。

The screenshot shows the 'Module Update Specification' configuration window. It includes the following sections:

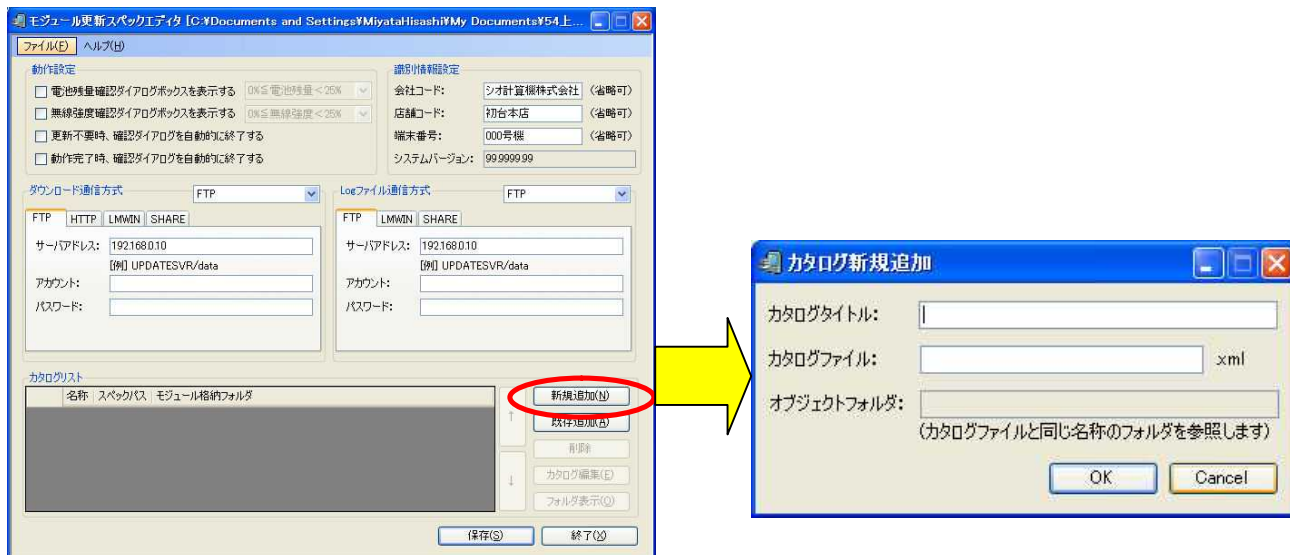
- 動作設定 (Action Settings):** Contains checkboxes for displaying battery level and wireless strength confirmation dialog boxes, and options for automatic termination of updates.
- 識別情報設定 (Identification Information Settings):** Contains fields for Company Code (シオ計算機株式会社), Store Code (初台本店), Terminal Number (000号機), and System Version (99.9999.99).
- データダウンロードの通信方式 (Data Download Communication Method):** Includes a dropdown menu (FTP selected) and fields for Server Address (192.168.0.10), Account (UPDATESVR/data), and Password.
- Logファイルの通信方式 (Log File Upload Communication Method):** Includes a dropdown menu (FTP selected) and fields for Server Address (192.168.0.10), Account (UPDATESVR/data), and Password.
- カタログリスト (Catalog List):** A table with columns for Name, Specification Path, and Module Storage Folder.

上記を参考に、パラメータを設定します。
詳しくは、ヘルプメニューを参照してください。

4.4 カタログファイルの作成

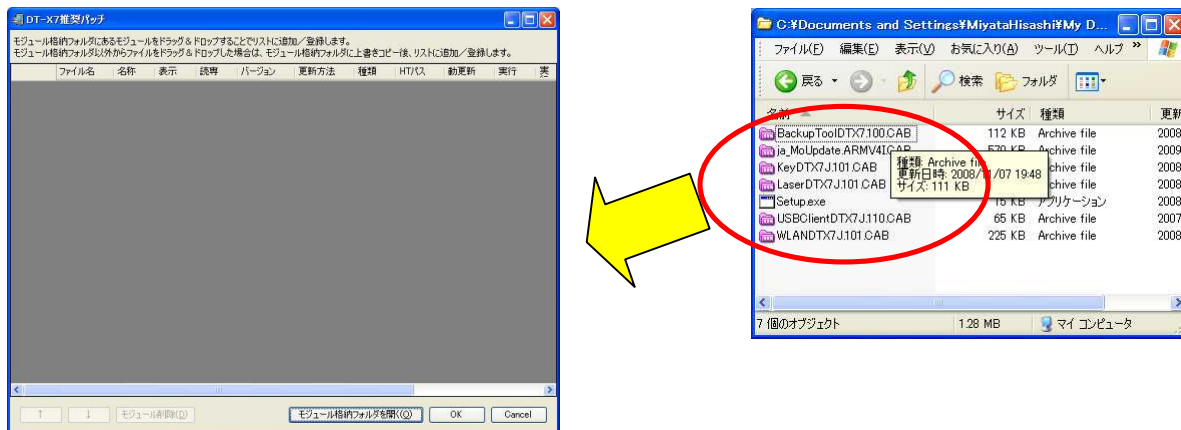
画面下部の、【カタログリスト】から、新規作成を選択します。

カタログ新規追加のダイアログが表示されますので、『カタログタイトル』『カタログファイル』を入力します。



空のカタログファイル編集画面が立ち上がります。

エクスプローラから、必要なファイルを、ドラッグ&ドロップして登録してください。



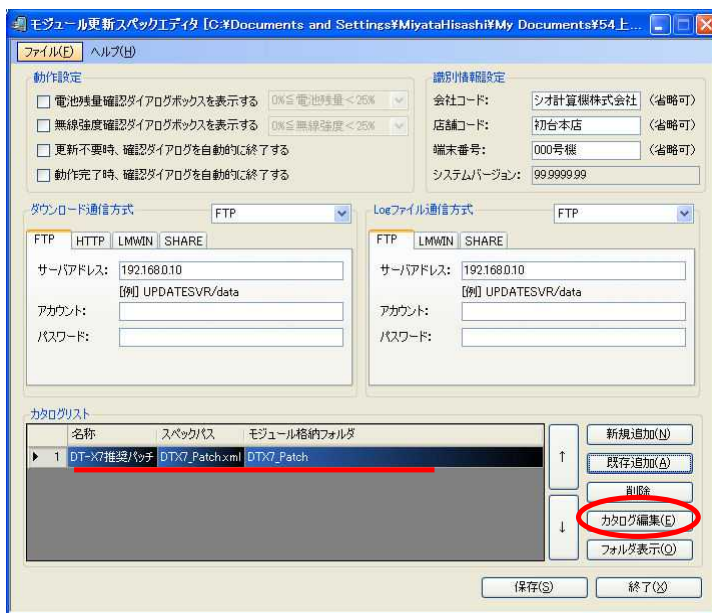
ドラッグしたファイルが、カタログファイル編集画面に登録されます。

【バージョン】【HT パス】等、必要なパラメータを入力します。



※モジュール更新データのフォルダ内に、カタログファイルと同じ名前のフォルダが作成されます。
ドラッグしたファイルは、自動的に、カタログファイル名と同じ名前のフォルダにコピーされます。

4.5 カタログファイルの修正



カタログリストを選択して、『カタログ編集』ボタンを選択します。
カタログファイル編集画面が立ち上がりますので、パラメータの編集を行ってください。



カタログファイルの編集が終了したら、【OK】ボタンで作業を終了します。

5. モジュール更新ツール 修正内容

5.1 Ver2.03 での変更点

モジュール更新ツール Ver2.03 では以下の改善と機能の追加が行われています。

1. < module> タグ
タグ内でファイル属性の指定が可能となりました。
< module attr="r">と、記述する事で、ファイルを読取専用でコピーできます。
以前のバージョンではこの記述は無視され、コピーデータの読み取り専用属性は解除されていました。
2. <Reset>タグ
以前のバージョンでは<Reset>タグが記述されているとエラーとなりましたが、本バージョンで正常に動作するようになりました。
3. 以前のバージョンでは、LAN クレドールなど無線 LAN を使用しない状態で、無線 LAN 強度警告フラグの設定の如何に関わらず無線 LAN の強度警告が表示されましたが、本バージョンでは、無線 LAN を使用していない環境では警告画面が表示されないようになりました。
一番最初、ハンディターミナル側にスペックファイルが無い場合には、警告が表示されます。
これはスペックファイルが無い為デフォルト設定(無線 LAN 警告あり)で動作するためです。
無線 LAN 警告表示をなしに設定したスペックファイルを読み込めば、警告は表示されません。

5.2 Ver2.06 での変更点

モジュール更新ツール Ver2.06 では、DT-X7M5xSB モデルから搭載されている『携帯端末構築ツール』と連携する機能が追加されています。
モジュール更新ツール単体での機能変更・改善はありません。

5.3 Ver2.10 での変更点

モジュール更新ツール Ver2.10 では、以下の機能が追加されています
タイムアウト値設定対応。
Setup.exe が動作しない場合がある問題の対応。
更新失敗時の端末ロック問題の対応。